

議決権行使レポート

証券コード 6904

会社名 原田工業株式会社

	賛成	反対	棄権
第1議案 剰余金処分の件	○		
第2号議案 取締役7名選任の件			
原田 章二 氏	○		
三宅 康晴 氏	○		
上山 智 氏	○		
佐々木 徹 氏	○		
青木 隆 氏	○		
桑原 亭二 氏	○		
井上 謙介 氏	○		
第3号議案 監査役2名選任の件			
檜山 洋一 氏	○		
遠藤 ゆき子 氏	○		

上記の推奨をした理由

・第一議案 剰余金処分の件：賛成

原田工業株式会社（以下、原田工業）では、今期、1531203000円の当期純損失を計上したのにも関わらず、株主に対する利益還元を重視し、配当金は1株当たり5.0円となっている。図表1は原田工業の当期純利益、1株当たり配当金、配当性向の年度推移である。原田工業の当期純利益は2021年度以降、大幅な赤字を辿っており、2023年度には過去5年間で最大の赤字を記録した。しかしながら、配当金が減ることはほとんどなく、一定程度の還元が続いている。また、配当性向を見ると、一定程度の内部留保を残していることがわかるため経営者の視点から見ても株主の視点から見ても、第一議案には強く賛成である。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年
1株当たり当期純損失(円)	43.07	9.21	△59.46	△50.83	△70.40
1株当たり配当金(円)	7.5	7.5	5	5	5
配当性向(%)	17.41	81.43	-8.41	-9.84	-7.10

図表1 原田工業の1株当たり当期純損失(円)、1株当たり配当金(円)、配当性向(%)

・第二議案 取締役7名選任の件：部分的に賛成

社外取締役は会社内での利害関係や昇進に囚われないため第三者として経営に対する客観的な評価や意見を述べることができる。原田工業では取締役7名のうち約30%に当たる、桑原亭二氏と井上謙介氏の2名が社外取締役候補者である。この割合は50%という海外企業の水準や3分の1以上という企業統治方針で求められている基準と比べると下回っているが、取締役全体の数が7と少数であるため改善は容易であると考え。桑原亭二氏は株式会社りそなと日比谷総合設備株式会社での経営者としての経験を当期純利益の赤字の打開につなげられると考える。また、井上謙介氏は7人のうち唯一の弁護士として法律に関する専門的知識を経営へと反映されると考える。よって2人の取締役としての選任に賛同する。その他5人に関しても、全員が会社内での豊富な事業経験を会社の価値向上につなげられると考えて5人の選任に賛同する。しかしながら、取締役全員が男性であることや外国人の取締役が1人もいないため、内部多様化の余地があると考え。

結論としては、各役員を選任には賛同する一方で、グローバル基準での企業統治方針を満たしていくため女性役員や外国人の役員採用を検討に入れていく必要があると考える。

・第三議案 監査役2名選任の件：賛成

原田工業では監査役設置会社が採用されているため、取締役会から独立した監査役には厳しい監査が期待できる。檜山洋一氏は原田工業の執行委員や取締役としての経歴があるため原田工業の業務に精通し、より詳細な内容までの綿密な監査を行われると考える。遠藤ゆき子氏は税理士として各種税金に関する専門的な知識、見識を駆使されることで、厳格な監査を行われると考える。両名とも監査役会の同意を受けていることと加えて、第三議案の内容には賛成である。

参考文献

6/25 アクセス [00.pdf\(eir-parts.net\)](http://00.pdf(eir-parts.net))

